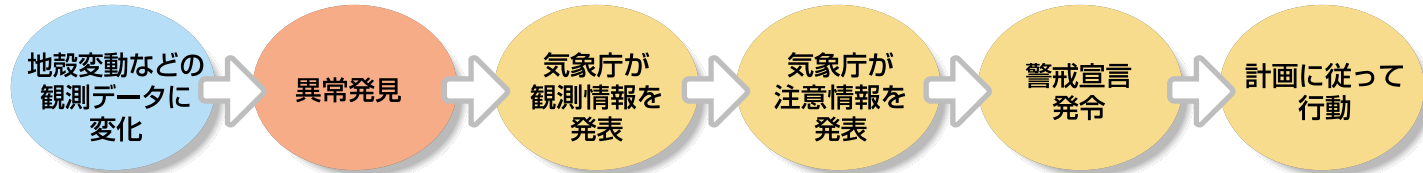


警戒宣言が発令されたら…

警戒宣言が発令されると、地震に対して様々な準備行動が始まるため、あらかじめ対応を知っておかないと大変な混乱が予想されます。どのような事態になるのかを十分に理解し、いざというときに迅速に安全な行動をとれるようにしましょう。

警戒宣言の流れ



警戒宣言とは?

東海地震の観測データの異常が一定のレベルを超えた場合、地震防災対策強化地域判定会が招集され、地震発生の前兆に結びつくかどうかを検討します。その結果「地震発生の可能性が高い」と判断された場合には気象庁長官が内閣総理大臣に報告し、内閣総理大臣は閣議を開き「警戒宣言」を発令することになります。警戒宣言が発令されると、国や強化地域内の地方自治体・公共機関・特定の事業所は応急対策を取ります。また住民その他の事業所でも警戒態勢が取られます。なお、気象庁ではデータの異常が判定会招集の基準に達しなくても「観測情報」および「注意情報」で異常発生を発表します。

警戒宣言が発令されたら、どうなる?

- 鉄道：最寄りの安全な駅に停車し運行を中止する。名古屋より西の新幹線は速度を落として運行されます。
- バス：付近の安全なところまで走行し運行を中止する。
- 道路：避難路及び緊急輸送路確保のため交通規制がされる。
- 小売店：安全を確保できると判断した場合は営業を続ける。
- 銀行：原則として営業停止となる。一部のATMは使用可能
- 病院：発災時に備える病院と地域医療を継続する病院の役割分担を行う。(詳細は未定)
- 電気：使用できる。
- ガス：使用できる。減圧されることがある。
- 水道：使用できるが、水はふだんからためておく。

- 電話：できるだけ使わない。話はなるべく短くする。通話する人が爆発的に増えると通話規制される。**家族等との連絡には災害伝言ダイヤル(171)を利用する。**
- その他：倒れるものはあらかじめ倒しておく。また重いものは床の上におくしておく。

大学では

名古屋大学では注意情報発表段階で対応を開始します。注意情報が発表された場合、講義・実験・研究などはすべて中止し、実験室・実験装置・研究室内における災害防止措置を講じた後、非常要員の教職員以外はすみやかに帰宅します。

緊急時の連絡先

各キャンパス内では下4ケタで内線から通じます
 ○緊急時(終日)救急車を要請した場合も下記に連絡
「学内110番(本部守衛室)」内線110、または789-4917・4918
 ○学部等教務学生係等(平日昼のみ)

●東山キャンパス	
・学務部学務課	789-2162
	2165
	5755
・文学部	789-2206
・教育学部	789-2606
・法学部	789-2317
・経済学部	789-2357
・情報文化学部	789-4228
・理学部	789-2808
・工学部	789-3599
・農学部	789-4010
・国際開発研究科	789-4952
・情報科学研究科	789-4228
・多元数理科学研究科	789-2402
・国際言語文化研究科	789-4881
・環境学研究所	789-4272
・教養教育院事務室	789-4725
・災害対策室	788-6038
●鶴舞キャンパス	
・医学部医学科	744-2683
●大幸キャンパス	
・医学部保健学科	719-1518
名古屋第二赤十字病院	832-1121(代)
名古屋大学医学部附属病院	741-2111(代)

名大地震防災訓練は10月第2水曜日です! 全員参加です!

東海地震や東南海地震で名古屋市もかなりの揺れが予想されています。名古屋大学も地震に備え、平成15年度より地震防災体制と初期災害対応の確立を目的とした訓練を行っています。訓練の際には、講義・セミナー・実験を中断し、地震時の対応行動をとります。また避難訓練や防災講演会が行われます。これらは防災教育の一環でもあり、参加が義務づけられています。「備えておけばよかった!」と後悔しないために、みなさんの積極的な参加をよろしくお願いいたします。



学生のための

平成17年度版

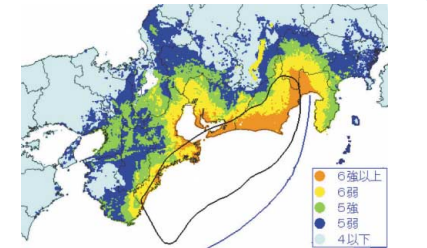
名古屋大学地震防災ガイド

東海地方で想定される地震とは?

東海地方では、東海地震に代表される「海溝型巨大地震」と濃尾地震に代表される内陸活断層等で発生する「内陸直下型地震」を想定する必要があります。

■**海溝型巨大地震** 東海地方で想定すべき代表的な海溝型巨大地震が東海地震と東南海地震です。駿河湾から四国沖にかけての地域では100~150年おきに巨大地震がほぼ同時に発生します。前回の昭和の地震の際には熊野灘で東南海地震(1944年)が発生しましたが、駿河湾での地震発生はありませんでした。そのため、駿河湾から遠州灘で発生するいわゆる「東海地震」の発生が切迫しているとされています。現在では東海地震発生予知のための世界第一級の観測網が展開されていますが、必ずしも予知が出来るとは限りません。2002年には東海地震の震源域が見直され、名古屋市を含めた愛知県の広い地域が新たに地震防災対策強化地域に指定されました。静岡県から愛知県東部では特に強い揺れと津波による被害が予想されるため、緊急の対策が必要となっています。次の東南海地震も今後30年間で50%の確率で発生すると考えられていますので、今から対策が必要です。

■**内陸直下型地震** 東海地方では岐阜県を中心として多くの活断層が知られています。一つ一つの活断層での地震発生間隔は1000年以上ですが、多くの活断層があることと震源が都市のすぐ足下であることから、海溝型の巨大地震よりも比較的狭い地域に強いゆれをもたらすのが特徴です。また2000年の鳥取県西部地震のように既知の活断層以外の場所に発生することもあります。特に海溝型の巨大地震発生の前後に内陸直下型地震も活発になることが知られています。直下型地震の予知は現段階では困難です。



東海地震と東南海地震が同時に発生した場合(内閣府による)

建物の倒壊

典型的な地震の被害は、大きな揺れによる建物の倒壊です。1995年の阪神・淡路大震災では、全壊・半壊を合わせて200,000棟以上の家屋に被害がありました。建物倒壊は、地盤条件や建物の構造、建築年により大きく異なり、軟弱地盤に建つ老朽木造建築物の被害が大きくなる傾向にあります。特に耐震基準が改正された1981年以前に着工した建物は耐震性が劣っている可能性が高く、きちんとした耐震診断と耐震改修が必要です。



火災



地震時には火災があちこちで同時多発し、水道管の損壊によって水が使えず消火活動が阻害されるだけでなく、消防署の消火能力を遙かに超える火災となります。コンロやボイラーなどの通常考えられるような火気のほかに、阪神・淡路大震災では電気器具も火災の原因となりました。地震で停電した場合にはブレーカーを切って避難することが大切です。

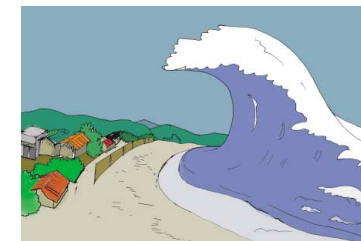
どういう被害が起こる?

家具の転倒

建物の耐震性が十分であっても、地震の強いゆれによって室内の家具が転倒して下敷きとなってけがや死亡する場合があります。とくにタンスやピアノ・本棚などの重い家具は壁や柱にしっかりと固定しておくことが大切です。中高層の建物の上の階では地表に比べて数倍の揺れとなりますので、特に念入りな家具の固定が大切です。またテレビやパソコンなどもしっかりと固定しておかないと地震の揺れによって部屋の中を飛んで直撃する危険もあります。



津波



大地震が海底の比較的深い場所で発生すると、海底の地殻変動により海面の水位が変化し、津波となって伝わりまします。津波の伝わる早さは時速数百kmにもなる場合があります。東海地震の場合には地震発生後5分程度で御前崎に、20分程で志摩半島に津波が到達し、場所によっては津波警報が間に合わないところもありますから、海岸付近で揺れを感じた場合にはすぐに高い場所に避難する必要があります。

地震が発生したら…

自宅・下宿にいるときに

●まずは身を守る

揺れを感じたら丈夫なテーブルや机の下に隠れ、落下物などから身を守ります。余裕がない時は、座布団やクッションなどで頭を保護します。

●出入口の確保

地震によって建物が歪み、出入口が開かなくなる場合があります。いち早く扉や窓を開け、建物に閉じ込められないように注意します。

●火の始末

揺れが収まったら火の始末をします。ガスは元栓を閉め、電気器具はコンセントを抜き、電気のブレーカーも切ります。停電が復旧したとき、電気のスイッチが入っていると思わぬ火災が発生します。

●あわてて外にでない

あわてて外に出ると、落下してきた瓦やガラスの破片でケガをする恐れがあります。揺れが収まってから、外に出るようにします。ただし、倒壊の恐れのある建物の場合は、素早く外へ逃げ出すことも必要です。



通学の途中に

●歩いているときは

住宅街では、道路に面したブロック塀や自動販売機などが転倒して、歩行者が下敷きとなってしまうことがあります。揺れを感じたら、近寄らないようにします。

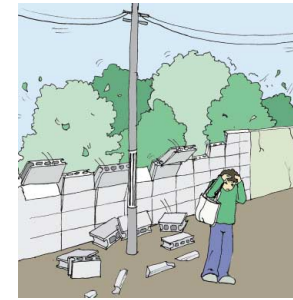
ビル街や商店街では、看板や窓ガラスの破片などが落ちてくる場合があります。カバンや衣類で頭を保護しながら、公園や広場など安全な場所まで避難します。

●電車やバスの中では

立っているときは、つり革や手すりにしっかりとつかまります。停車しても勝手にドアを開けて外に出ないこと。対向車両などの危険があります。車内放送をよく聞いて乗務員の指示に従ってください。

●自動車の運転中には

運転中に地震に遭うと、ちょうどパンクしたような感じとなり、ハンドルを取られることがあります。揺れを感じたらハンドルをしっかりとつかみ、徐々にスピードを落として車を道路の左側に停めます。急ブレーキは危険ですから絶対にやめてください。車を止めたらカーラジオで正確な情報を得ます。車から降りて避難する場合には車のキーをつけたままにし窓を閉めて車を離れます。ドアはロックしないようにします。



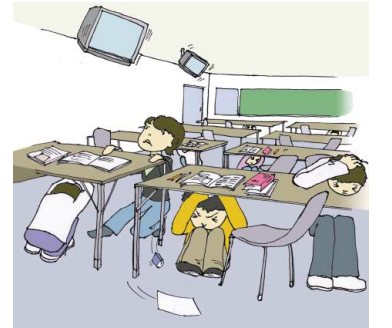
講義中に

●身の安全の確保

まずは、その場で自らの身の安全を確保します。図書室・実習室などでは書棚やパソコンは転倒のおそれがあるので、すぐに離れます。火気を使用中の場合には、揺れが収まってから火の始末をします。また、天井からスピーカー類が吊り下げられている場合には、落下する危険性があります。

●避難の心得

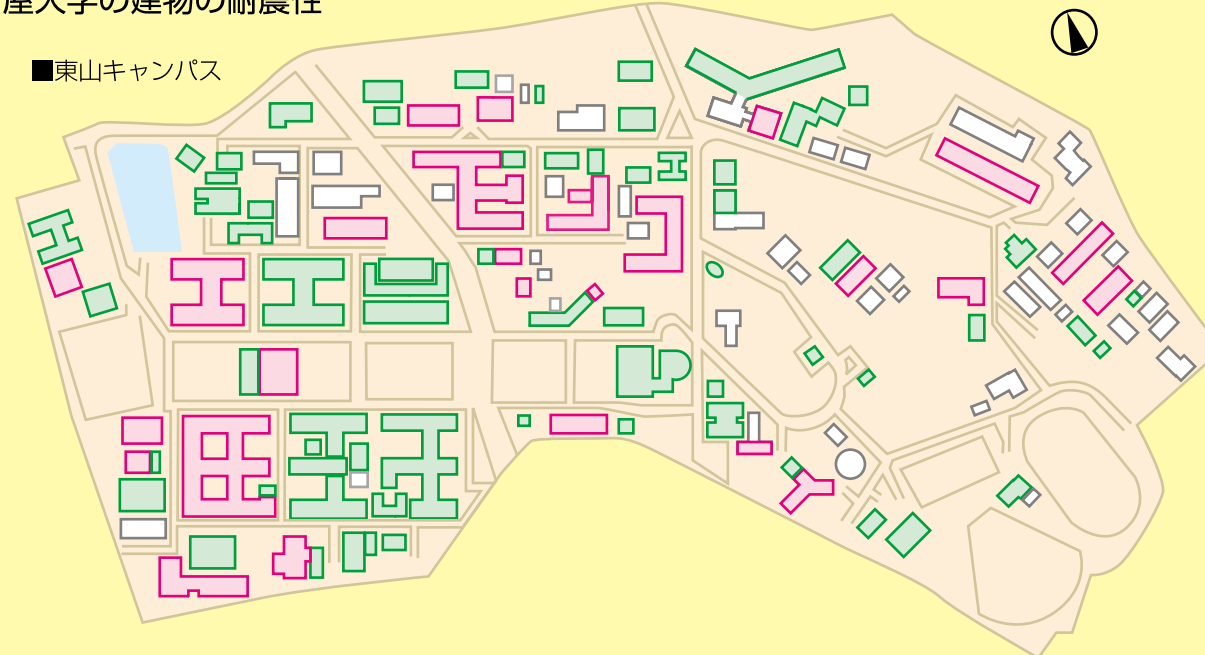
大勢の人が一斉に出口や階段に殺到すると危険です。教官の指示に従ってください。もしエレベーターに乗っていたら全部の階の停止ボタンを押して、止まったところで降ります。



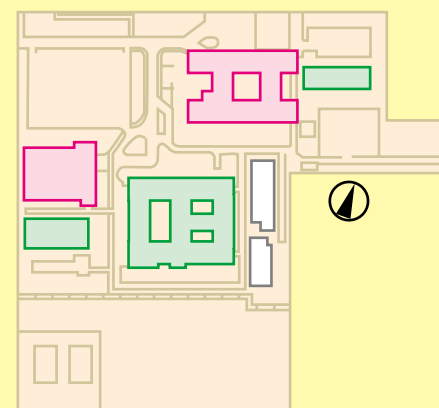
学内での地震対策

名古屋大学の建物の耐震性

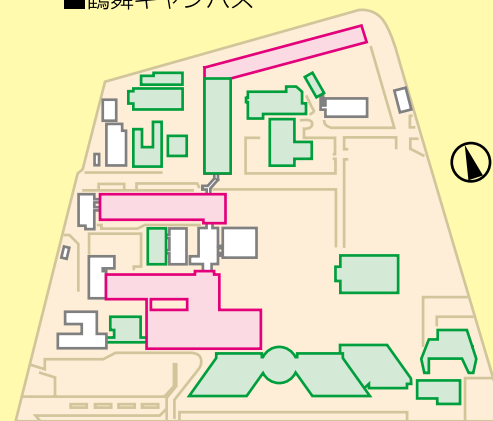
■東山キャンパス



■大幸キャンパス



■鶴舞キャンパス



- 耐震性を備えた建物 (耐震改修を行ったものを含む)
- 耐震性が十分でない建物 (耐震改修予定を含む)
- 耐震診断対象外の比較的小さい建物



パソコンの転倒

「テレビがとんだ」と表現されるように、地震の揺れが大きい場合には、パソコンやディスプレイが数メートルも飛ぶことがあります。

コンピュータやハードディスクは転倒により貴重なデータが失われることがあります。粘着性ゲルなどで固定すると良いでしょう。

実験室の災害



実験器具や化学薬品を使用した実験が行われているときに地震が発生すると、器具等で負傷したり、薬品がかかって火傷したり、薬品やガス漏れによる引火や爆発の危険性があります。また、流出した薬品が混合して危険なガスが発生するおそれがあるため、揺れがおさまったら、ガス・電源を切り、速やかに避難します。



ロッカー・書架類の転倒

背の高いロッカーや書架類は転倒しやすいため、しっかりと固定が必要です。また書架が固定されていても、ほとんどの書籍が投げ出されるため、揺れを感じたら、すぐに書架から離れるようにします。

1995年阪神・淡路大震災による神戸大学内の被害 (神戸大学提供)

火災の発生

実験室、食堂や機械室などでは日常的に火気を取り扱い、研究室でも暖房器具を使う機会があるなど、地震時には火災への注意も必要です。火災が発生したら、ボヤのうちの消火を心がけるべきですが、初期消火で対応できる範囲は限られますので、火災が大きくなったら、速やかに避難します。

避難の心得

- ・エレベーターは電気が不通になった場合、閉じ込められる可能性があるため避難には使用してはいけません。
- ・煙は室内の上部から充満するので、煙から逃げる時は姿勢を低くします。ぬらしたハンカチなどで口や鼻を覆うことも有効です。
- ・教職員の指示がある場合にはそれに従って、落ち着いて行動してください。



1978年宮城県沖地震による東北大学理学部化学棟の火災 (河北新報社提供)